

## 野外における体験学習

千葉県少年自然の家は、子ども達へ野外での体験学習を行っている青少年団体が多く利用します。ボーイスカウト千葉地区協議会の五十嵐輝美会長に千葉県少年自然の家に期待することを伺いました。



青少年問題が社会の関心を集めている今日、子どもたちをより良い方向に導き、生きる力をはぐくむ心の教育の必要性が指摘されています。子どもたちを取り巻く環境も大きく変わり、テレビゲームやメール通信等が氾濫し、体験の伴わない知識中心の遊びに偏り、屋外で元気に遊ぶ姿が見られなくなりました。

失われつつある屋外での遊びを取り戻すためにも、幼少のころより自然に触れる機会を与え、野外で遊ぶ面白さ、団体活動の楽しさを数多く体験させる環境づくりが必要かと思われまます。



私共ボーイスカウトの目的は地域社会での奉仕活動や自然を利用したさまざまな野外活動を体験させ、少年たちの健全な心と身体の育成に貢献することにあります。

幸い千葉県では既に

群馬県新治村の大自然の中に高原千葉村を開設しており、市内中学校をはじめ多くの青少年団体が活用しています。ボーイスカウトも毎年数多く利用させていただき、訓練キャンプの集大成の場所として多くの成果を得ていることに感謝いたしております。難点は遠距離のため所要時間がかかり過ぎることでした。



今回開設された「千葉県少年自然の家」は市内より一時間足らずでいける魅力と、房総の低い山並みと起伏の多い自然そのままの姿が活かされており、且つ環境保全にも工夫が施されている理想的な施設が出来、喜んでいきます。設備も全て整い利用する者に対する配慮が随所に見られて、天候に関係なくさまざまなプログラムが組み楽しく過ごせそうです。この最良の施設を有効に活用し付近の散策、生き物の生態、星の観察など自然の中で遊ぶ面白さ、グループごとのゲーム等で思う存分体力や知力を使って競う団体活動の楽しさ等を体験させて、自立心や協調性を養う最適の場所として幅広く活用されることを期待します。

1人でも多くの子どもたちに利用を勧め、野外活動の楽しさを体験して欲しいと願っています。

## 主催者 ファミリーキャンプ～7才 どんと焼き体験とかき餅作り～

平成19年最初のファミリーキャンプは、15家族、53名の参加者が、小正月の行事であるどんと焼きと地元長柄町で収穫した作物を使用して、かきもち作りを体験しました。

1日目の1月20日(土)は、「大寒」にあたり、曇り空から雪が降ってきたような寒さでした。午前中は様々なゲームを通じて、初対面だった家族同士でふれあい、語り合う時間を過ごしました。午後には、いよいよ「プチどんと焼き体験」を行いました。プチどんと焼き体験は、営火場にちょっと小ぶりな櫓を組み、スタッフからどんと焼きの意味を聞いてからスタートしました。櫓は小さいながらも勢いよく燃え上がり、参加者各自で持参した正月飾りや書き初めを火にくべました。しかし、



途中で突然のみぞれに見舞われ、残念ながら中断となってしまいました。一旦屋内に場所を移した後、長柄産の棒もち(うるち米で作ったおもち)と焼きマシュマロをおいしく食べて、少年自然の家風「プチどんと焼き」を締めくくりました。

2日目にはもう一つのメインのプログラム、「かきもち作り」を行いました。お父さん方が大活躍した臼・杵でのもちつきでは、杵が折れるハプニングもありましたが、子ども達も交替でお屋のおもちをつきました。また、かきもち作りでは、長柄町で採れた「大豆」「シイタケ」と「ごま」「あおのり」を蒸したもち米に混ぜ、機械を使ってついたおもちで各ファミリーが思い思いの形のオリジナルかきもちを作りお土産としました。家族内だけでなく、参加家族同士でも会話の弾んだ楽しい2日間となりました。

## 主催者 交流分析講座～自分を 知り、子どもと心を通わすために～

1月21日(日)に「自分を知り、子どもと心を通わすために」というテーマで交流分析協会の川上由美氏をお迎えし交流分析講座を開催しました。教員や青少年団体の指導者29名が受講し、ワークショップ形式で、和やかにかつ活発に講座は進められました。

一般に交流分析のねらいとして「自分らしい生き方をし、心地よく楽しんで人生を歩む」ということがあります。では「自分らしさ」とはどのようなことでしょうか。交流分析では、エゴグラムという手法を用い、自分はいったいどんな部分を持っているのかという自己への気づきを学ぶことが出来ます。受講者の皆さんは、自分が他人とどのように関わっているかに気づき、また自分が無意識に行ってきた行動や考え方



などの元になっている要因に気づくことが出来たようでした。

また、講座ではストローク(感情のやりとり)を体験するために、2人組になり話し手と聞き手に分かれ、聞き手は①無表情で聞く②うなづきのみで聞く③誠意を持って聞くという体験を行いました。受講者の皆さんは、一緒に聞き手になった場合に、①②は「本当につらい」③でやっとストロークが生まれたと感じました。話し手となった場合は、①②共に「聞いてもらえていないという事がわかるので話す気がなくなる」③で「聞いてもらえていく」というストロークを感じるとの声がありました。これも子どもと心を通わせ、気持ちの良い人間関係を築くのに役立つ手法の体験でした。

今後も、ワークショップ形式の学んで楽しい講座を開催していく予定ですので、皆さまのご参加をお待ちしております。

